

◆ コスモエネルギーホールディングス (5021)

2017年度 第3四半期決算 アナリスト・投資家向け決算説明会 質疑応答の要旨

---

— 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。 —

1. 日時 : 2018年2月8日(木) 19:00 - 20:00
2. 出席者 : 62名
3. 主な質疑応答 :

<石油事業>

Q1: マージン動向を教えてください。

A1: 4-12月の実績は前年同期比で2円強の改善。また、10-12月の実績は前年同期比で2円弱の改善。  
1-3月の計画は前年同期比で3円程度の改善となる見込み。

Q2: 1-3月のマージン水準について、10-12月実績との比較ではどうか?

A2: 1月の実績は織り込まず、3ヶ月平均で約1円程度、低い水準で計画している。

Q3: 17年度のマージン動向に対する評価、及び18年度の見通しについて

A3: 良い環境が続いており、大きな構造的な変化がなければ、このまま推移すると思うが、引き続き動向を注視していく。

Q4: 石油事業でマージンは改善した一方で、2Q(7-9月124億円)と3Q(10-12月99億円)では減益になった理由について教えてください。

A4: 堺製油所の定修コストが3Qに期ズレしたことや千葉定修コストが当期に計上されたことが主要因。

<石油化学事業>

Q5: 丸善石油化学における3Q実績の増益要因を教えてください。

A5: 価格要因で約80億円、数量要因で約40億円が主な要因。

Q6: 「品質検査に関する不適切行為」リリース後の進捗、及び収益影響は?今後のリスクは?

A6: リリース時点(2/2)では121件中、69件のお客様にご説明済みとご報告したが、1週間を経過した現時点(2/8)で全てのお客様へのご説明が終了した。今後の潜在的な影響は不明と言わざるを得ないが、全ての説明を完了した時点で具体的なトラブル、求償、取引停止などの事例は発生していない。3月中に調査委員会できりまとめを行い、4月に再発防止策を公表させて頂く予定。

<石油開発事業>

Q7: ヘイル油田の収益寄与について、今期と来期の見通しを教えてください。

A7: 11月に生産開始、1月25日にはフル生産へ移行し、安定生産を継続している。今期の収益貢献は、約10~20億円。来期は60ドル、110円前提で経常利益300億円以上を見込む。

<株主還元、資本政策、その他>

Q8：来期の設備投資水準について

A8：2018年度は、今年度の半分程度に抑えられればと検討はしているが、期ズレも含め、今期の5～7割程度になるのではないかと考えている。

Q9：業績が好調であり、配当性向も低くなってきているが、改めて、配当方針を教えて欲しい。

社内ではどのような議論をしているのか？

A9：皆様からもご指摘頂いている通り、まずは当社の課題である財務体質改善を優先させて頂きたい。

今年度は配当を50円で据え置きとさせて頂く予定。来年度以降については、財務体質や投資戦略等も考慮しながら、これから議論していく。

Q10：石油精製事業の収益力がかなり回復してきたと思うが、繰延税金資産の再計上の見通しは？

A10：今後の事業環境や当社業績を踏まえた上で、年度末に会計士との協議をさせて頂く。

以上

本書の記述及び記載された情報は、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から判断した見通しによるものです。このため、実際の業績は、様々な外部要因により、本書に記述および記載された情報とは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。